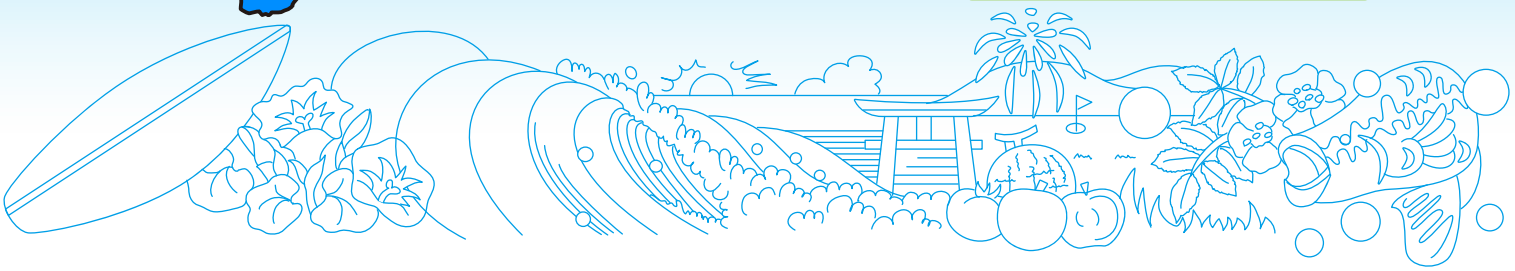
Clip

千葉県一宮町の
ライフスタイル 紹介サイト

ブック版 Vol.02



http://ichinomiya-iju.jp/

千葉県長生郡一宮町役場　まちづくり推進課（直通）
一宮町移住定住相談窓口

☎ 0475-42-2113

〒299-4396　千葉県長生郡一宮町一宮2457

イチオシ一宮町

一宮町はどんなところ？
「海・くらし・歴史」 町の特長をまとめました！

海

おもいっきりサーフィンする！

レベルやスタイルに合わせて選べる
表情のちがうサーフポイント！

年齢も国籍もさまざま…　でも、みんな海が大好きです！

歴史

通りの奥に一歩踏み込むと、そこには歴史が・・・
玉前神社を中心に伝統と歴史残る町です

文豪 芥川龍之介 が夏を過ごした町
大正3年と5年（1914, 1916年）の夏に一宮に滞在し、
後の妻・塚本文にラブレターを書いたことが知られています。
手紙は現在文学碑に刻まれ毎年碑前祭が行われています。

現在も続く酒醸家も　東浪見小学校も
伝統を重んじ、未来へ繋げる
そんな文化が根付いています

くらし

町のお医者さんはしっかりあります！
町内には、医院9施設、歯科医院7施設 があります

少人数だけど元気いっぱい！小学校
「お誕生日会を開いたら、クラスの全員が集まっちゃった！」
「カブトムシを捕まえたり、海で貝拾いをしたり、毎日が冒険！」
子供たちの笑顔がキラキラ

朝がちょっと早くても楽々通勤のワケは
JR上総一ノ宮駅は、通勤快速始発の駅です

日用品のお買い物は商店街やスーパーマーケット
衣類や雑貨は海岸通りでトレンドを逃さない！
産直所の新鮮野菜が当たり前

車でお買い物が定番だから、重たい荷物も気にならない

この町のこの人

一宮町に暮す方々にインタビュー！
町の魅力や暮らしのこだわり、困ったことや気が付いたことなど、さまざまな角度から質問してきました！

Vol.01　ほんとにいいことばかり！
のびのびチャロと一緒に景色を楽しみお散歩しています！

Vol.02　一宮の自然を見つめて30年余り、毎日新しい発見の連続
研究からアートへ夢フィールドは広がります

Vol.03　田んぼの中のコーヒー豆屋さん
アロハのこころで商売も繁盛！

Vol.04　サラリーマンから農家に
無農薬栽培の田んぼと畑で土と遊んでいます

Vol.05　仲間といっしょに子育てサークル
今しかない“ママライフ”を楽しんでいます

Vol.06　“サーフィンが好き”理由はそれだけ
好きなサーフポイントの近くに暮らし家族のびのびです！

Vol.07　アトリエ付きの家で創作に没頭　目的をもって暮らすから
田舎くらしは充実するのです

Vol.08　海風を感じながらゆっくり、のんびりリラックス
気分はハワイアン！

Vol.09　夢かなって海の見えるカフェバー経営
最高のローカルスタイルを楽しんでいます

Vol.10　定年までの８年間　東京への電車通勤
座って寝て行けて最高でした！ここはいい！

Vol.11　豊かなな自然が子どもの心を育みます
悠々自適のちょうどいい田舎暮らし

Vol.12　知識と経験で地元農業を引っ張る若手農家は
レゲエDJマンでもある

Vol.13　グラチャン　プロサーファーは
生まれも育ちも　生粋の一宮っ子

Vol.14　サーフィンと音楽と友達と
それだけで充分　シンプルライフ

Vol.15　里山の自然と人びとの温もりに
心癒されています

vol.
03

田舎暮らしを楽しむ

田んぼの中の
コーヒー豆屋さん

アロハのこころで
商売も繁盛！

Published：2011.11.08

お名前：利根川 太一さん　40代　自家焙煎コーヒー豆屋経営
　　利根川 早苗さん　40代　主婦・フラサークル主宰
ご家族：峻一くん（小6）・犬2匹・猫1匹
一宮町人：2007年～
先住地：埼玉県さいたま市浦和区

一宮町の他に検討した移住候補地は？

太一さん：以前土地開発に関係する仕事に携わってきたので、様々な別荘地などを見ていました。
内房や軽井沢、那須など。伊豆の方は山で坂が多く、雨も多くて寒いと凍ることもある。小豆島や山口県の方はとてもいいところでしたが、突然全然知らないところに移住するには、よほど資金的にも余裕がないとね。
いつかは「もっと田舎に」とか「ハワイ、オーストラリア」もあるかもしれない。でも子どもが小さい時に突然というのは現実的ではなく、商売もしなくてはいけない。そうすると東京からいきなり離れるわけにもいかないですよね。

具体的に絞り込みを行ったのですね

太一さん：埼玉県の人はやっぱり海に憧れるのですかね。海のそばの田舎暮らし、という理想があってずっと考えていました。
僕は埼玉の浦和で、妻は江東区生まれの浦安育ち。海水浴というと九十九里でしたので以前からこの辺りには来ていましたので。自然という面では館山や千倉はキャンプ場にもよく行ったり良かったのですが、やはりちょっと遠かったですね。

最も考慮したことは？

太一さん：一番考えたのは子どものことでした。こちらに来た時は小学校2年生だったので。いろいろ見てみて人数も多くしっかりしてそうなのは、一宮小学校だったのです。

他にも決め手はありましたか？

太一さん：一宮には特急も停まりますからね。それで何度か具体的に通うようになって、白子から御宿の手前くらいまでいろいろ見て回りました。あとは、移住者が多いことかな。
ここに来た時のこの(前が田んぼで)開けている感じと、茂原に近い、あとは温泉が好きなので白子の温泉にすぐ行けるなぁというのが重なって。あとは商売があるから角地で2項道路というのがないとプライベート空間と同じになってしまうので。それからはとんとん拍子で進みました。

お店の経営に関してはいかがでしょう？

太一さん：太一さん：脱サラして浦和でコーヒー豆の自家焙煎と卸・小売り販売をはじめたのが2002年。
それから5年ほどやっていたので固定客さんや卸先さんがそこそこあったので、少し減ってもこれまで通り発送していればなんとかなるかな、くらいであまり心配しなかったですね。

移住してからの経営は？

太一さん：でもいざ、こちらに来てみるとコーヒーや嗜好品に関する意識は違いますよね。
それと商圏の感覚が違いますね。こちらの人の感覚では20～30キロの商圏というのが普通ですから。みなさん千葉市とか平気でさっと行っちゃう。
お客様も東金や大網、御宿辺りからこれだけのために来てくださるのは田舎の良さなのかな。
そういうのを求めている人は意外といるのだなと、ここ3年程やってよく分かりましたね。ウチは宣伝もしてないし、口コミというか、あとネットですよね(パソコンの回線が光になったのがやっと去年[2010年]ですがね)。「気になってた」「ちょっと通りかかったらコーヒー豆っていう看板があったから寄ってみた」とか、そういうのはうれしいですよね。

一宮での経営について

太一さん：ここで固定客もなくいきなり商売を始めるのはむずかしいと思います。

自分のうちの敷地内でちょこっとやる、ウチのような、趣味を活かした特長のあるものは田舎ではとってもいいと思います。表通りからちょっと入ったところとか。趣味を活かす時間は田舎に来るといっぱいありますから。

田舎の良さは？

太一さん：一番いいのは新鮮な野菜が手軽に手に入ること。とにかくいっぱいもらうので、それはもうありがたいことですね。

田舎での生活はいかが？

早苗さん：もともと田舎暮らしに興味がありました。でも、ほんとは60才くらいになってからと思っていたのですが、主人が商売していることもあって体の動くうちに行こうといわれて、30代でこちらに来ることに。
大地からもらうエネルギーをより実感できます。季節を感じられます。
田植えの頃になると”あーこれから夏が来るのだな”とか、青々とした稲を見ているだけでパワーが湧いてきます。
季節毎の旬のお野菜もその日採れたてのものが食べられたり、空気もおいしい。
田舎で暮らす人達の元気はこういうところからもきているのだな、と実感します。

田舎ならではの楽しみは？

早苗さん：都会ではなかなか出来なかった田舎ならではの楽しみがいろいろありますね。
地のものでお料理して誰かのお宅に集まってお庭で持ち寄りパーティとか。散歩しながらお花を摘んだり。
春になると野草を採りに行ったり、楽しみが沢山ありますね。お料理好きな人にはもってこいですね。新鮮な野菜と海の幸がありますから。

それと週に1度の温泉。一宮は白子温泉も近く10分位で温泉に入れるというのは魅力的です。

住み心地はいかがですか？

早苗さん：　一宮はちょっとハワイに似た雰囲気がありますよね。
なぜか時間の流れが違いますね。前はいつも時間に追われていた感じですけど、こっちにきてからあまり時計を見なくなりましたね。

海や里山、自然からもらう元気が自分のエネルギーの源になっていると思います。

いろいろやりたいことがいっぱいあって忙しいですが、充実してます。田舎に住んでしまうともう都会に住みたいとは思わないですね。住むのはやっぱりこういう自然豊かな場所がいいなと思います。住み心地もいいですよ。

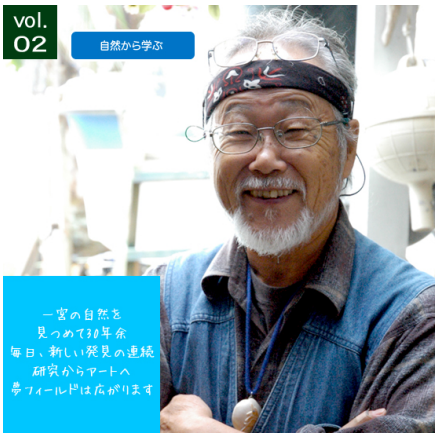
お子さんの教育環境などは？

太一さん：意外に子どもが多いので小さい子どもがいてもそれほど不便ではないですよ。
田舎にいた方がより人間性とか、コミュニケーションというのがあるような気がしますよね。まだアナログな部分も残ってますから。
通学は子どもの足で50分位ですか。朝7時頃出て行きますよ。慣れれば足腰強くなっていいのでは。山有り谷有りじゃないからそんなに大変じゃないですよ。
それに子どもの学習塾も英会話の塾もあります。あるいは行こうと思えば茂原になんでもありますから。

移住を考えている方にひとこと

太一さん：いきなり土地を買ったり投資するのが難しい人は、体験で少し借りて週末だけ遊びに来て散策しながら見て、という探し方も面白いかなと思います。
一宮辺りは賃貸物件も多いし、その土地の良さ、利便性、人の良さとかを体験してみる。ここを拠点に考えていくというのも房総の真ん中だからできるよね。移住者も多いので、いろんな意見も聞けるし。

それと一つ思うのは、50-60才でリタイヤしていきなり田舎に来ても大変ですよ。
雑草を刈るにも、ゴミを出すのも意外に体力を使いますからね。雨風も都心と違って強いし。
その気持ちがあるのなら早いうちに来た方が。要は考え方次第だと思います。



vol.
05

vol.
06
サーフィンライフ

vol.
07

vol.
08
海のちかくで

vol.
09
海のちかくで
POWER
TO
THE
PLANET

vol.
10

vol.
11
子育て時代

vol.
12

vol.
13
BURGER
サーフィンライフ

Published：2012.3.17

お名前：Ben Weiさん　35才　サーフボード・シェイパー
　　葵　Weiさん　35才
一宮町人：2009年８月～
先住地：カリフォルニア州サンディエゴ　/ 埼玉県

簡単に自己紹介を

Benさん：生まれはペンシルベニアですが、2才からずっとカリフォルニアで育ちました。家族もそこに。
5才からスケートボードをはじめて、16才(1992年) でプロ・スケーターに。スケートボードのブランド=グラビディのチームライダーになって、17才 (1993年) の時にその日本ツアーに参加したのがはじめての来日です。それで日本が大好きになった。
サーフィンを始めたのは11才の時。なかなか自分のサーフィンに合う板がなくて、自分でシェープするようになりました。

日本が大好きになったのは？

Benさん：一番最初は、成田に着いて、コーヒーの自動販売機に感動しました。すごい！熱いコーヒーがいつでも缶で飲めるよ！それと缶ビールも自販機で買える！
すごくビックリした。
それと電車でどこでも行ける。カリフォルニアは電車がサンフランシスコとサンディエゴまで1路線しかなくて。
あと、食べ物も大好きだった。とんかつと寿司が大好き。

ほんとに住みたいと思ったけど、友達には「全然日本語も出来ないのに無理、無理！」って言われた。でも、僕はトライできると思ってた。というのも、来る前に日本語の勉強をちょっとしていたのね。
パブリックのカレッジで日本語コースに行って。会話を一番勉強したかったのだけれど、それはあまりできなかった。でも、日本人のルームメートがいたからちょっと練習できたし、食べ物とか、その友達の日本人の友達が泊まりに来たりして、日本の文化も少し知ったし、ずっと日本人とはイイ感じだったからね。
そういえば、2才の時ちょっとだけニューヨークに住んでいて、その時のベストフレンドが日本人だった。ヨウヘイって、まだ覚えている。彼の持っていた日本のおもちゃがすごくカッコよかった。クオリティも高くて、最新のテクノロジーが使われていて。ずっと前から日本のモノは好きだったな。

2人が出会ったのは？

Benさん：2007年2月の2回目の来日で出会いました。今度は自分のサーフボード・ブランドのプロモーションのための来日で。

葵さん：横浜のエキスポ（見本市）で、私は友達の会社のブースで営業の手伝いをしていて、その隣がスケートボードのブースで、Benのスポンサーでしたから、彼がブラブラしていて。そこで知り合いました。
その後、同じ年の8月にサーフスケーターズ・コンテストというのが一宮町であって、それにBenはプロモーションを兼ねて選手として出場するために来日して再会しました。
ちなみにBenはサーフィンとスケートの総合で4位でしたね。

日本に住もうと思ったのは？

Benさん：日本人は優しくて、安心感がある。カリフィルニアの人も優しいのだけれど、すごく危ない場所があったり、ドラッグやガン（拳銃）もいっぱいある。だから、いつもちょっとだけ気をつけていなくてはいけない。でも、日本に来るとすごくリラックスできる。何の心配もいらない。全部大丈夫、みたいな。それがすごく良かった。それは外国人の友達はみんな言うね。まるで「ディズニーランドみたい」って。みんながハッピーで、あまり心配がいらない。もし何か問題があっても、周りの人に聞いたり尋ねれば、たとえ英語がしゃべれなくても何か手伝ってくれたり、すごくナイスなフィーリングだよね。それは一番いい。みんなイイ感じ。あとはサーフィンとスケボーの友達もとても明るくハッピーな感じ。もちろん、妻と知り合ったのは一番の要因だよ。

一宮に住むことになった経緯は？

葵さん：Benは今までほとんど海の側で育ってきているからということと、やはりビジネスもしたいということで、海から離れた環境を考えたことがなかった。それで、私がいつもサーフィンで行きなれていたここ一宮町で再会することになったり。
一宮町は東京にも近いし、環境的にもいいし。アパートの大家さんの息子ヒデヨシくん(プロサーファー) がカリフォルニアの

Benのところに泊まりにきていたりして面識があったり。私もすごく仲のいい友達がこちらに住んでいて、この辺りがいいと薦められて。
はじめ私は一緒に住んでいなくて、Benが一人で住むことに。でも、外国人も多いですから安心して住めたのだと思います。大家さんも家族のように暖かく迎えてくれて。縁があったのだと思います。

一宮に住んでいかがですか？

Benさん：みんな世界中のいろいろな場所に住んでいたり、バケーションで滞在したことがある人達だけど、ここが一番いいって集まってきている。こういうファミリー・フレンド・スタイルというのは他にはどこにも無い。いろんな人が言っていたよ。スペシャル・コネクション（特別な結びつき）があるって。

それと外国人の友達はみんな昔から音楽や楽器をやっていたけど、もう20年くらいやってなかったのが最近盛り上がってきていて、みんなでセッションしたり音楽している。一宮にいると、いろんなところから来た人達と出会うことができてすごく面白い。オーストラリアとカナダの友達、南アフリカの人、イギリス人、すごくワールド・ミート・ポイントだよね。

葵さん：都会から来たら、多分このオープンなスタイルと考えに、最初はビックリするけど、そのうち受け入れられるようになると思う。自由な感じ。自分の自由な空間が広がるから、もっと自分らしく生きられる。都会だといつも狭い空間に入れられて、隣の人と近くて、自分のスペースっていうのがすごく狭いでしょ。だから自分を表現することも隣の人に聞こえれば、伝わればいいというように小さくなってしまう。でも、本来スペースはもっとあってこれくらい表現しないと他の人に届かない、ならそれが本来人間が自由でいられるスペースなのではないかと。
みんなサーフィンだけじゃなくて絵を描く、音楽をするとか、そういう趣味をもっていて、それぞれでやっていたのだけど集まってやりはじめたり、面白い。簡単に友達ができる。みんなオープンだよね。

お仕事の方はいかがですか？

Benさん：シェイピングの工場が、以前は隣の長生村の一松にあったのですがちょっと遠いので、このグラスファイバーの工場に移って、4人程で共同で使っています。一人で使っていると、作業の工程などでどうしても空いた時間ができてしまうけど、何人かでやっているとグラスファイバーの工程も切れ目無く廻っていくからね。
最近までフルタイムで毎日学校の英語の先生をしていて、週末だけシェイピングができた。でも最近、シェイピングの方が忙しくなってきたので、学校の方はパートタイムになると思います。
シェイピングだけで食べていくにはまだまだ努力が必要。でも、僕のブランドのサーフボードがパタゴニアにも置いてもらえるようになったし、サーフィン感覚に近いスケートボードの製作と販売をスタートさせたり、いろいろあるので、少しずつレベルアップしていけたら。

好きな場所は？

Benさん：太東ヘッド、太東ビーチが好き。波音。マイハウス。それと玉前神社。

葵さん：ビーチでたまに夜光虫も見られるし。空が広いから、虹もすごい。

経済的な面はいかがですか？

Benさん：かなりのシンプルライフですから、そんなにいっぱいお金はかからない。サーフィンと音楽と。ビーチもネイチャーも。アウトスタイルのものがいっぱい。そういうのはあまりお金がかからない。

葵さん：たぶん都会に住んでいたら全然違うでしょうね。向こうにいると欲しいモノや場所など、欲求も上がるし、遊びも全部お金がかかります。でも、こちらにいるとシンプルでいられる。やりたいことに忠実に生きられる場所ですよね。

不便なこと、お困りのことは？

Benさん：家と工場と海は全部近いから、免許は要らないかな。他の場所でも、電車でどこでも行けるし。長距離バスも好きだよ。リラックスできるし、コンピューターミュージックもできる。茂原からも横浜行きの高速バスがあって利用している。　カリフォルニアも車は多いけど、サーフィンの人はみんなビーチの近くに住んで自転車やスケボー使っている。車にシャワーなど全部積んでコインパーキングに駐めてなんて、ちょっと面倒くさい。ウェットスーツを着て板を抱えてそのまま自転車で行って、パーキングも関係なくて、お金もかからないし、ウォームアップもできる。みんなそういうスタイルになった。それと3年前にガソリンも高くなって、みんなどんどん使わなくなった。大きい車も無くなったし。エコスタイル？

葵さん：カリフォルニアはどこのビーチもシャワーが付いているから水を持って行く必要もない。シャワーを浴びて、そのまま着替えて。ほんとに簡単な作りでいいのですから、シャワーがあったらいいと思う。でも日本みたいにシャンプー使ったりしちゃうとそうもいかないかもしれませんね。そういう部分では注意が必要なのでしょうが。

Benさん：海岸沿いの国道は、夏のシーズンは車がすごく多くて、横断歩道も少ないから、大人でも渡るのが大変。子ども達は全然渡れないですよ。だから押しボタン式の横断歩道があったらいいな。

Published：2013.04.02

一宮ネイチャークラブの皆さん
代　表　戸張七重さん（右）／都内文京区から移住
副代表　増田美奈さん（中央）／船橋市から移住
事務局　吉田百合子さん（左）／埼玉県新座市から移住

貴重な里山の風景が残る一宮で、米づくりや自然保護活動に取り組んでいる市民グループがあります。それが「一宮ネイチャークラブ」。

今回の「この町、この人」は、同クラブ代表の戸張七重さん、副代表の増田美奈さん、事務局の吉田百合子さんに、一宮の自然とその魅力について語っていただきました。もちろん、皆さん、生粋の一宮人というわけではなく、県内、県外から移住されてきた方々。一宮に暮らすきっかけや暮らしの印象についてもお聞きしています。

一宮ネイチャークラブの活動内容は？

戸張さん：昔からの地域の方々と新しく移住してきた人たちが、農薬や化学肥料を使わない環境共生型の米づくりを実践しながら、同時に里山の自然に暮らす生き物たちの多様性を守る活動をしています。

もともと自然豊かな一宮ですが、農業従事者の高齢化、後継者不足で谷津田のような環境がとても少なくなってきています。今となっては大変貴重なこうした環境を維持保全しながら楽しんでいこうと、大人も子どもも一緒に活動しています。

自然観察会も行っているんですね？

戸張さん：私たちがお借りしている田んぼは松子地区にあるのですが、ここにはゲンジボタル、ヘイケボタル、クロマドボタルという3種のホタルが生息していて、毎年6月には観察会を行っています。
また、松子川や田んぼの生き物観察会、ザリガニ釣り大会、隣接する森を歩いて植物の観察会なども行っています。

松子地区に生息する生き物

ヤマユリ

ゲンジボタル

今や希少なメダカ

ハグロトンボ

クラブの発足はいつですか？

戸張さん：2001年です。
その前年に、地元小学校の児童が校内で地メダカを飼育していましたが、校長先生や教育委員会の協力で松子地区の休耕田にメダカ池をつくって、そこで保護していくことになりました。このとき無農薬の稲作水田もつくって、その管理や周辺遊歩道の除草、関連事業を目的に、クラブの母体である「松子川ネイチャークラブ」が誕生し、のちに「一宮ネイチャークラブ」となりました。

こちらでの生活はいかがですか？

戸張さん：愛おしいですね。こうして日々身近に土や水に触れていると、その掛け替えのなさをとても感じます。
自分が住む場所や地域についても同じことが言えると思いますが、そういった思いが活動を後押ししてくれているのでしょうね。自然や地域の事を学ぶのも楽しくて、先輩にも恵まれ新しい友達もたくさんできましたよ。

増田さん：住めば住むほど好きになる町という感じでしょうか。
じつは私も主人もここへ来るまでは、一宮がサーフィンのメッカだと知りませんでした。でも主人は周りに感化されて遅咲きのサーファーをやっています（笑）。なんだか、ものすごくハマっているみたいです。
私はもうすっかりこの町の自然に身体が馴染んでいますね。
先日、久しぶりに都内に出る用事があったのですがとても疲れました。ああ、人ごみってこんなにも私を疲れさせるんだなって。一宮を離れてわかるありがたさ、といった感じですね。

吉田さん：自然と共にある暮らしには心癒されます。
たとえば、この間、停電があって家の外も中も真っ暗に。すると煌々とした月明かりの美しさが目に飛び込んできて大感激。「月ってこんなにきれいだったんだ」って。
夜に停電があったら本来は相当不安なはずなのに、心は至って平静。むしろその場を楽しむ余裕すらあったなんて不思議でしょう。このまま復旧しないのなら「寝ちゃえばいいか、朝が来たらなんとかなるでしょう」って、夫と2人あっけらかんとしていました。都会での暮らしではとてもこうはいきませんよね。

一宮に移住されたきっかけは？

戸張さん：一宮の環境に惹かれた親が20年以上前に引っ越してきていたので、ちょくちょく遊びに来ていましたが、自然いっぱいで空気も食べ物もおいしくて感激したものです。
そのうち親も高齢になってきて、私も年齢とともに自然豊かな生活のほうが自分に合っていると思い移ってきました。
伝統的なお祭りや盛大な花火大会など、この地ならではのエネルギッシュな行事があるのも魅力的でした。

増田さん：ずっと以前から田舎暮らしに憧れていたんですね。で、主人に相談したら「いいよ」ってことになって。
いろいろ検討したら、2人が好きな海が近くにあって、最寄のJR上総一ノ宮は快速の始発駅ということもあり、主人の通勤問題もこれでクリア。で、ここに決めました。
長女がちょうど小学校1年生に上がるときだったのでそういう意味でもよいタイミングでした。

吉田さん：夫の実家が千葉にあるので、いずれは県内のどこかに居を移す予定でした。できれば海あり山ありの土地がいいね、というのが2人の共通した意見でした。
私はといえば、家庭菜園がしたかったので野菜がつくれるだけのスペースはほしいなと。
こんな条件に見合った土地を探していたのですが、夫は勤めがあるので通勤圏内でないとダメということで、いろいろ検討した結果、一宮に決まりました。
勝浦や鴨川あたりも候補でしたが、通勤ということを考えるとやはり厳しかったですね。その点、上総一ノ宮から特急を使えば東京まで約1時間、快速の始発駅でもあるので座って行けるということが決め手になりました。

クラブに参加するきっかけは？

戸張さん：ここへ移り住んできた99年頃、地元の会員の方にホタルを観に連れて行ってもらったのがきっかけですね。自然に生息しているホタルを間近で観るのは初めてだったので新鮮な感動を覚えました。

増田さん：ずっと以前に鴨川の大山千枚田で稲作を体験したことがあって、それを伝え聞いた知人が一宮にも米作りに取り組んでいるグループがあると紹介してくれました。
最初は子どもが小さかったり、下の子が生まれたりしてブランクが続いたこともあったのですが、せめて皆のお手伝いくらいはと、折を見ては参加させていただいていました。

吉田さん：一宮に移住しようと購入した土地の周囲を夫と散策していた時のこと、田んぼの近くの遊歩道を歩いていたら、大勢の人が広場のような場所で楽しそうに何かしていたんですね。それが一宮ネイチャークラブの皆さんだったんです。
運良く、当時の会長さんともお話ができて「移住するならぜひメンバーになってくださいよ」と誘っていただきました。

クラブの活動を通じて何かご自身に変化は？

戸張さん：自分のイノチを支える食べ物を、自分たちの手でつくることができる――米づくり体験を通じてそれに気づかされたことは大きいですね。
こちらに来るまでは便利な都会暮らしをしていましたが、どこか言い知れない不安を抱えていたのも事実。それは今思うと、食べ物をすべて他人や社会に依存する生き方はアブナイですよと、身体は解っていた（笑）。
自然と共にある一宮の生活は大きな安心感と自信を与えてくれましたね。

増田さん：田んぼに立ってみて気づいたのは「風が気持ちいいな」ということ。友人も「それ、わかる！」ってお互いが共感できたのがまず嬉しかったですね。
それと、子どもたちが積極的に参加するようになりました。最初はただ私についてくるだけだったのが、今ではみんなこの田んぼに来るのが好きみたいです。いちばんの変化といえば、私自身に子どもたちから目を離していられる時間ができたということ。周りには大人も子どももいますし、頼りになる先輩方もいらして子どもの相手をしてくれたり、声をかけてくださいます。可愛がってくれるんですね。それが子どもたちもうれしいみたいで。
自然との触れ合いだけでなく、人との触れ合いもある、それが一宮ネイチャークラブのいいところですね。

吉田さん：戸張さんの仰っていることはすごくわかりますね。
仮に何か災害のようなことが起きても、自分の家の庭に芋があるから大丈夫だろうとか（笑）、近くの農家まで行けば食べ物くらいなんとかなるといった安心感があります。都会に住んでいたら、真っ先にスーパーに食料を買い占めに行くところなんでしょうけれど。

今後のクラブの活動について

戸張さん：里山の自然あふれる一宮。では、今まで誰がその手入れをしてきたのかというと、この土地に代々暮らしてきた地元の方々なんですね。それが今日、後継者不足などの問題を抱えていらっしゃるので、私たちもこの活動を通じてお手伝いができればと思っています。
また、子育て世代の会員は子どもたちが安心して遊べる田んぼや原っぱがこの先もずっとあってほしいと願っていますので、次の世代に引き継いでいくのが私たちの使命だと考えています。

増田さん：あの田んぼに行くと、自分がしたいことができる。しかも、子どもの相手をしてくれる大人や、一緒に遊んでくれる子どもたちもいるから、私自身、没頭できるんですね。言い換えればこの時間はお母さんではなく1人の女性として人生を楽しんでいられるんです。そんな私の生き生きした姿を横目で見て、子どもたちもきっと喜んでくれていると思います。
これからもずっとこの活動を続けていきたいですね。

吉田さん：一宮ネイチャークラブは地域の人たち、子どもたちが田んぼを守ろうという純粋な気持ちで集まって活動をしているのが素晴らしいんですね。決して商業絡みでもないし、一過性のイベントでもない。ここに地域のパワーを感じます。
また、古くからこの地元で暮らしている人たちと私たち新住民との交流が活発なのもこのクラブの魅力です。しかも老若男女、年齢や立場を超えてひとつになれる貴重な場。言ってみれば、自分が住み続けたいまち、その縮図がこのクラブだと思います。
大事に育てていけたらいいですね。

会員募集中

一宮ネイチャークラブは、環境教育や自然保護などの活動を続けながら、一宮町・松子地区で無農薬による米作りを十数年以上続けている市民グループ。
田草取りや稲刈りなどの農作業をはじめ、自然観察会を通じて希少な里山の動植物と触れ合ったり、秋には収穫祭を行ったりと楽しい行事も。

自然が大好きだという方や米づくりに参加してみたいという方はぜひ会のメンバーに。

お問い合わせ

一宮町役場　まちづくり推進課　☎ 0475-42-2113　受付：9:00 - 17:00（休日：土日祝）

当サイトの運営／管理、移住定住相談窓口です。
移住に関するご相談はお気軽にお問い合わせください。

一宮町役場　産業観光課　☎ 0475-42-1427　受付：9:00 - 17:00（休日：土日祝）

町内ではたくさんの観光イベントを開催しています。
観光イベントなどについてはこちらまでお問い合わせください。
また農業や商工業についてもこちらまで。

一宮町役場　教育委員会　☎ 0475-42-4576　受付：9:00 - 17:00（休日：土日祝）

一宮町には町立小学校が２つ、町立中学校が１つあります。
町内の教育のことについては、こちらまでお問い合わせください。

イベントカレンダー

伝統行事、サーフィン大会、フリーマーケットなど
地域密着型の情報満載！
一宮町はいつも元気いっぱいです！

2012年イベント実積

04月07日　花園流日本舞踊・雅楽花見の宴
04月08日　上総国郷土芸能共演会
04月13日　春季大祭　浦安の舞　上総神楽
04月14日　上総国酒まつり
04月29日　第9回上総国さすが市
　　お田植祭
06月11-17日　ホタル観察週間
06月23日　ICHINOMIYA OPEN
06月24日　ICHINOMIYA OPEN
　　玉之浦禊行(釣ヶ崎海岸禊行)
06月30日　第16回 国際交流フェスティバル
07月07日　渚のファーマーズマーケット
　　千葉チャンピオンシップ
07月08日　千葉チャンピオンシップ
07月14日　海水浴場開き
　　みやなぎ宮薙あんどん行灯まつり
07月15日　みやなぎ宮薙あんどん行灯まつり
07月16日　第4回いいもんうまいもん市
07月21日　Surf Jam 2012
07月22日　サンライズマーケット
07月29日　サンライズマーケット
　　観光地曳き網
08月03日　玉前雅楽会 月見の宴
08月04日　箸感謝祭
　　一宮町納涼花火大会
08月05日　サンライズマーケット
　　観光地曳き網
08月11日　文化財講座
　　「昔の文字から歴史を読む」
　　納涼盆おどり大会
08月12日　サンライズマーケット
　　納涼盆おどり大会
08月13日　観光地曳き網
08月16日　一宮川燈籠流し
08月19日　サンライズマーケット
08月26日　サンライズマーケット
09月09日　上総国一宮まつり
09月10日　上総十二社祭り（稚児行列・鵜羽神社御迎祭）
09月12日　上総十二社祭り（例祭宵宮祭）
09月13日　上総十二社祭り（例祭・南宮神社大祭）
09月22日　城西国際大学公開講座「植物の力を再発見！」
09月29日　城西国際大学公開講座「植物の力を再発見！」
10月06日　城西国際大学公開講座「植物の力を再発見！」
10月13日　一宮町社会福祉大会
10月21日　一宮海岸クリーンアップウォーキング
　　第2回渚のファーマーズマーケット
10月27日　十二神社例祭（愛宕まつり）
10月28日　十二神社例祭（愛宕まつり）
　　芸能と音楽を楽しむ会
　　さすが市
11月01日　氏子太々祭
11月03日　一宮町総合文化祭
　　第34回一宮町農林商工祭
11月04日一宮町総合文化祭

最新イベント情報は
一宮町観光協会のホームページを
ご覧ください

http://www.ichinomiya.org/

音響はやし

http://ichinomiya-iju.jp/

千葉県長生郡一宮町役場　まちづくり推進課（直通）
一宮町移住定住相談窓口

☎ 0475-42-2113

〒299-4396　千葉県長生郡一宮町一宮2457